

危険な外来生物

「外来生物法」で指定されている特定外来生物のうち、「人の生命・身体への被害」が報告されている危険な外来生物について、その被害例や対応などを、まとめています

I カミツキガメ

【国内における確認状況】

- ・東京都内で見つかっている。
- ・千葉県、静岡県でも定着が確認されている。

【生態：生息地など】

- ・夜行性で深い水場を好む。
- ・雑食性で昆虫類、甲殻類、貝類、魚類や両生類のほか、鳥類や小型哺乳類の死体、水草まで食べる。



【形態：大きさや特徴】

- ・甲羅の長さは最大約 50cm
- ・甲羅には 3 本のやや発達して盛り上がった線（隆条）がある。
- ・尾側の甲羅の縁はギザギザしている。
- ・四肢は強靱で頭部が大きい。
- ・腹側の甲羅は小さく十字型をしている（カミツキガメ科の特徴）。

【原産地】

- ・原産地は、カナダ南部から南アメリカ大陸の北西部。

健康被害の具体例

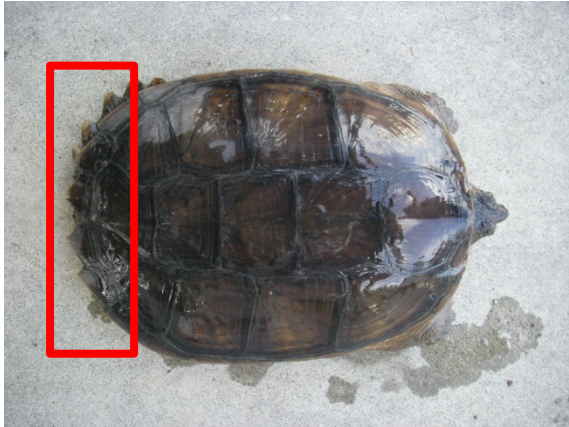
- ・人への咬傷^{こうしょう}。
- ・陸にあげられた個体は攻撃的で、大型個体に咬^かまれた場合は大怪我が想定される。

被害を受けた場合の対処法

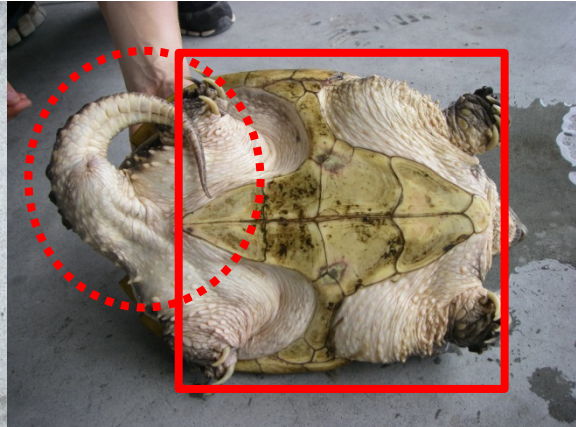
- ・医療機関を受診

特徴・間違えやすい類似種との識別点

【カミツキガメ科の特徴】



こうえん
後縁はギザギザ



ふっこう
十字型の腹甲、尾は他のカメより長い。

【間違えやすい類似種との識別点】

外来

在来

カミツキガメ

Chelydra serpentina

特定外来生物



ワニガメ

Macrochelys temminckii

生態系被害防止外来種
定着予防外来種
その他の定着予防外来種



アカミミガメ

Trachemys scripta

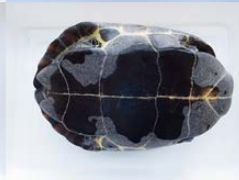
生態系被害防止外来種
総合対策外来種
緊急対策外来種



クサガメ

Mauremys reevesii

外来生物



イシガメ

Mauremys japonica

在来種
準絶滅危惧 (NT)
(環境省RDL)



(カミツキガメ・ワニガメ (腹甲) : NPO 法人生態工房提供 / ワニガメ : 一般財団法人進化生物学研究所提供)

駆除方法

- ・成体と亜成体については、河川や沼岸にもんどりワナを設置することで捕獲できる。
- ・幼体は成体が入ることのできない流速の穏やかな水路に生息していることが多く、孵化後の8月以降に駆除を行う。小型のもんどりワナを使用する。
- ・5～6月の産卵時期には、成体のメスが陸上で産卵のために徘徊するため、その個体を捕獲する。
- ・捕獲個体は冷凍庫に収容し、そのまま凍結させ致死させる。

 [危険な外来生物 Web サイトへ](#)

この資料についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

東京都環境局 自然環境部計画課 / TEL 03-5388-3548 FAX 03-5388-1379

[3]

このページの内容の一部は、Flicker 等が提供しているコンテンツを利用しており、クリエイティブ・コモンズの表示ライセンスに記載の条件に従って使用しています。

本サイト上の文書や画像等に関する諸権利は東京都に帰属します。本サイト上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。